

演題：改めて考えるアプレミラストの使いどころ

講師：もとまち皮膚科クリニック 院長 本間大先生

本講演では、掌蹠膿疱症と乾癬に対するアプレミラストの使いどころを病態との関連から再検討した。掌蹠膿疱症は汗管周囲の炎症、抗菌ペプチド活性化、IL-8、IL-17、IL-23、IL-36などの炎症性サイトカイン、さらに喫煙や病巣感染など複数の要因が関与する複合疾患である。こうした背景を踏まえ、禁煙や病巣感染対策を診療の基盤としつつ、適切な時期に全身療法を導入する必要がある。

アプレミラストはPDE4阻害を介して炎症シグナルを調整する経口全身療法であり、臨床試験ではPPPASI各症状スコアの改善が示され、実臨床でも導入しやすい薬剤と考えられた。乾癬治療では発売後9年以上が経過し有効性や安全性は本邦でも確立されており治療の転換点において重要な役割を担っている。

乾癬及び掌蹠膿疱症診療では患者背景に応じた柔軟かつ最適な治療選択が重要である。